

「調査船「はやつき」 沿岸域の生物・環境調査

深層水も詳しく

水産試験場は2隻の調査船を所有している。富山湾はもとより日本海沖合海域を調査海域とする「立山丸」(160トン)に対し、「はやつき」は富山湾沿岸域を調査海域として、生物、海洋、環境など水産に関する調査を行う19トンの小型調査船である。乗組員は3人で、調査時には通常1、2人の研究員も乗船する。

現船は二代目で、栽培漁業調査船「はやつき」と命名されている。船名は、水産試験場の近くにある急流河川の早月川や、アルピニストのあこがれの山「剣岳」への登山道のある早月尾根に由来している。

初代は、赤潮や水質汚濁などの調査を主目的とした漁場環境調査船であり、二代目は種苗の放流や放流海域の生物調査など栽培漁業の推進も担っている。さまざまな調査を的確に行うため、通常の漁船には見られない、各種の自動海洋観測装置、研究機器などを装備している。また、活動範囲である富山湾沿岸には、刺し網や百ヶ所以上の定置網など、多くの漁具が設置されており、これらの漁具の間を縫って航行することが多く、乗組員の監視に加え、精度の高い航海計器および船の前と後にあるスクルーが航行の安全性と機動性を補佐している。

主な活動内容は、沿岸域(時には湾の中央部に及ぶこともある)での水質や水深数百メートルの海底の泥を採集する漁場環境調査、トヤマエビやマダラなど栽培漁業種の種苗の試験放流、漁具を用いた放流海域の生物採集調査である。さらに、現在注目を集めている海洋深層水についても、その特性をより詳しく調べるため、流向・流速など海水の動きや、微量成分分析のための採水などを行っている。近年は、大学や県の各試験研究機関からの協力依頼もあり、水産の枠を越えて活動範囲が広がっている。

漁具が輻輳(ふくそう)する沿岸域で、海がなぎの時も荒れる時にも、乗組員一同、緊密なチームワークをもって安全第一に富山湾一帯の調査に日々当たっている。

不思議な海「富山湾」の海洋環境、海洋生物の謎を解き明かしていくためには、はやつきのような調査機器を装備し、小回りの利く調査船の活動に期待がかけられている。(濱本八次郎・前はやつき船長)



富山湾の生物、海洋、環境などの調査を行っている調査船「はやつき」＝滑川沖